

〒758-8555 山口県萩市大字江向 510
TEL : 0838-21-7765 FAX : 0838-25-7767
e-mail : hg-geo@city.hagi.lg.jp
HP : <http://www.city.hagi.lg.jp/site/hg-geo/>

発行： 萩ジオパーク構想推進協議会
事務局：萩市ジオパーク推進課

会長挨拶

このたび、本協議会の会長に就任いたしました萩市長の藤道健二です。

本協議会の設立から2年が経過します。この間、皆様とともにジオパーク活動に取り組み、日本ジオパーク認定を目指して申請を行いましたが、審査の結果、残念ながら認定見送りとなりました。この審査の中で、いくつか本協議会が取り組むべき課題が示されました。その一つが、ジオパークに取り組む目的や必要性が十分見えてこないことです。

萩市と阿武町、山口市阿東を含めたこの地域は、過疎化や少子高齢化が著しく進展している地域であり、これを解決することが大きな課題となっています。地域を挙げてこの課題を解決し、地域の活性化に取り組む、そのためのツールの一つが、大地の遺産を保護・保全し、教育や地域振興に活用して、持続可能な地域づくりを目指すジオパーク活動であると言えるのではないかと思います。

ジオパーク活動により地域が活性化し、経済的にも潤う仕組みを、皆様とともに考え、しっかり時間をかけて、継続的に取り組んでいこうと考えています。

「地域を元気にする」ため、皆様とともに活動に取り組んでまいりますので、引き続きご支援ご協力を賜りますよう、よろしくお願いいたします。



この4月から新しくジオパーク推進課に加わったスタッフを紹介します。

4月からジオパーク推進課の非常勤特別参与として、また協議会事務局の一員としてお世話になることになりました松浦好洋です。よろしくお願いいたします。出身は大井で、土・日や勤務がない日は甘夏柑の栽培や米づくりに勤しむなど、日頃から大地（ジオ）と深く関わっています。大井は自然豊かな地で、その特性を活かして農業や水産業が営まれています。また、古代ロマン薫る歴史や多様な文化が育まれた地でもあり、ジオサイトとして見どころが豊富で多くのストーリーに満ちた地域です。萩市には、大井と同じようにジオサイトになり得る特色のある場所がどこにでもあります。ジオパークの活動を通じて、協議会や市民の皆さんとともに、全ての地域が元気になるように取り組んでいきたいと思っています。現在、萩・明倫学舎内のジオパークビジターセンターの一角で業務をしていますので、お気軽にお立ち寄りください。

ジオパーク推進特別参与 まつうら よしひろ 松浦好洋

ジオパーク専門員となりました白井孝明です。私は幼少期に化石に興味を持ち、大学で地学を学びました。在学中に宮城県仙台市で東日本大震災を経験し、被災地での復興作業や教育普及活動に関わる中で、地震や火山噴火をはじめとする自然災害の絶えない日本において地球科学が社会に対して果たすべき使命の大きさを感じました。その後、室戸世界ジオパークの地質専門員を3年間務め、昨年8月には日本ジオパークネットワークの現地審査員として萩を訪れました。これからは、萩市民の皆さんと一緒に、ジオパークを目指す立場ですが、東北や室戸で培ったノウハウと国内外のジオパークを訪れた経験を生かして、ジオパークの町としての萩の発展に尽力します。明治維新胎動の地である萩が、ジオパーク活動によって日本社会に再び変革をもたらすことを目指しましょう。



ジオパーク専門員 白井孝明

〈報告〉平成29年度 定期総会が開催されました 4/10（月）

去る4月10日（月）、午後1時30分から萩市役所大会議室において、萩ジオパーク構想推進協議会の定期総会が開催されました。日本ジオパーク認定申請については、認定審査基準の明確化に伴い、現在の運営体制では申請しても認定は厳しいとの有識者からの意見があったことから、平成29年度は申請を行わず、平成30年度以降に再挑戦することが承認されました。平成28年度事業報告及び収支決算、平成29年度事業計画（案）及び収支予算（案）について審議が行われ、それぞれ原案通り承認されました。

また、この度は任期満了に伴う役員改選についても審議が行われました。西村武正副会長の勇退に伴い、後任に（一社）須佐おもてなし協会の山本隆志会長が選出され、他の役員は留任で承認されました。

最後に、今年度から採用された松浦好洋ジオパーク推進特別参与と、白井孝明ジオパーク専門員の紹介、挨拶がありました。新たな事務局スタッフを迎え、万全の体制で再度日本ジオパーク認定申請に臨めるよう努力してまいりますので、引き続き皆様のご支援・ご協力の程よろしくお願いたします。



〈平成29年度定例総会〉

平成29年度事業計画

（事業方針）

萩ジオパーク構想を推進するため、教育・普及、地域振興及び調査・研究事業を実施する。
日本ジオパーク認定を目指し、必要な取組を行う。

（事業概要）

（1）教育・普及

広報用パンフレット、ガイドマップ等を増刷し、萩ジオパーク構想周知のため配布する。
拠点施設の展示資料等を追加作成する。
小学校及び中学校において使用する教材・資料の作成を支援する。
公民館の各種学級などの生涯学習機会をとらえ出前講座を実施する。

（2）地域振興

ガイド養成講座を継続的に実施する。
地域会議を継続して開催し、地域住民の理解を深め、持続可能な地域づくりに向けた方策を検討する。

（3）調査・研究

専門員や学術機関とともにジオサイトの調査・研究を行う。現地調査の開催を検討する。

（4）日本ジオパーク認定に向けた取組

認定審査基準の変更に合わせて申請準備を進め、認定に向けて必要な措置を講じる。

（5）ジオパーク推進に係る事業計画策定

事業計画策定に向けた準備を進める。

（6）その他萩ジオパーク構想の推進に必要な事項

各種ジオパーク関連行事の支援等

平成29年度収支予算書

収入の部

（単位：円）

項目	予算額	摘要
補助金	10,000,000	萩市補助金
繰越金	3,000,018	寄附繰越分
その他収入	482	預金利子等
合計	13,000,500	

支出の部

(単位：円)

項 目	予 算 額	摘 要	
事業費	7,066,000	調査・研究費(ジオサイト調査費、先進地視察旅費等)	1,400,000
		普及啓発費(展示資料作成、看板、横断幕、幟、ポスター、リーフレット、啓発グッズ等)	2,400,000
		講演会等開催費(講師に係る謝金、費用弁償旅費、宿泊施設借上料等)	876,000
		日本ジオパークネットワーク会費、負担金等	350,000
		各種大会参加費(旅費、大会参加負担金等)	2,040,000
事務費	2,863,000	臨時職員賃金(含 社会保険料、雇用保険料、労災保険料)	1,608,000
		会議費(費用弁償旅費、お茶代)	202,000
		図書・消耗品費(参考図書、事務用品購入等)	325,000
		印刷費(封筒印刷等)	200,000
		通信運搬費(通信費、資料運搬、郵送代等)	528,000
予備費	3,071,500		
合計	13,000,500		

地域のシンボル "大将山" の山開き 3/20 (月) むつみ地域

萩市のむつみ地域には、地域のシンボルである伏馬山(ふすまやま)や、大根の一大産地である千石台といった、大昔の火山活動によって形成された地形が、身近な存在としてあります。

日々の生活で活用しているからこそ、身近な存在であり続けてくれるこれらのシンボルですが、地域の人々の足が遠のいてしまうと、残念なことにすぐに自然に還ってしまいます。

かつては、むつみから阿東方面の学校への通学路として生徒がよく使ったり、地元中学校の校歌にも「志の高さ」を象徴する名として歌詞に登場したものの、若い世代には、知らない者も増えてきた場所があります。それは、「大将山」(たいしょうざん)です。

古くは毛利家が山城を築いた歴史があり、見晴らしの良い大将山。最近では登山者が減り、山頂付近は手入れが追いつかなくなるほど自然に還りつつありました。むつみ地域内はもちろん、晴れた日には日本海や萩六島まで一望できる絶景のスポットを、いつまでも地域のシンボルとして受け継ぎたいという思いから、むつみコミュニティ協議会のメンバーやむつみ中学校の生徒、地域の住民有志が集まって、登山道の整備や山頂の手入れを行いました。そして、2017年3月20日(月)に「山開き」開催に至りました。完璧に舗装された道ではありませんが、手作業で坂道に段差を設けて足場を作り、要所には「この先、急になっています!」とか、「頑張っ」といった中学生が手作りした看板がかけられ、以前よりも心の温まる登山道として復活させることができました。また、頂上には間伐した丸太を組み合わせたベンチも設置しました。

そんな手作りの登山道や山頂だからなのか、山開き当日に登山した参加者全員が、とても晴れやかな表情で山頂からの絶景を見渡していました。私もその中の一人でした。

今回、大将山の登山道整備に参加した(私も含む)若い世代には、自分たちで手入れした地域のシンボルだという誇りが強く根付きました。是非ともこの誇りを、次の世代に引き継いでいけるように、自然との調和を考えながら守っていきたいと思います。



(看板を立てるむつみ中学校生徒の皆さん)

(萩市地域おこし協力隊 高橋伸匡)

ジオツアーって何？ … 「ジオツアー」を体験しました

4月23日（日）、Mine 秋吉台ジオパーク（GP）のおすすめジオツアーを体験しました。ジオパークの楽しみ方として、「ジオツアー」があります、と説明しますが、そもそもジオツアーって何でしょう？

萩から最も近いGPである Mine 秋吉台GPは銅鉱石の赤、石炭の黒、石灰岩の白と3つの色で表現され、中でも「白」で表現される石灰岩台地が特徴のジオパークです。秋吉台の特有の地形とこの地で生きる人々に大きくかかわるのが「水」です。「水」をキーワードに秋吉台の成り立ち、この地域で暮らす人々の暮らしに思いを馳せるツアーを設定していただきました。

コースを考え、ご案内をいただいた方は、地元出身で Mine 秋吉台GPのジオガイドとなって1年、まだ勉強中。植物の紹介は苦手、とおっしゃりながらも、「ぜひ、台上散策では草原性の植物も見たい」、と貴重な植物をご紹介していただきました。マイクを使うタイミング、解説資料の使い方などは、観光ガイドの経験のある参加者にとっては、「自分の方が上手」と思えるところもあったようですが、幅広くお話いただきました。地質や岩石にはほとんど触れることなく、秋吉台の成り立ちを説明されていたことには一同感心してしまいました。

さて、萩らしいジオツアーとはどういうものなのでしょうか。萩の大地の成り立ちをいろいろな側面から感じることでできるツアーと一緒に考えてみましょう。



〈秋吉台の台上散策〉

ジオガイド大募集！ 萩の大地の魅力を一緒に語ろう

ジオガイドとは、「ジオパークのまち 萩」の先頭で、お客様に對していただく方です。

今年度は、萩のジオパークの見どころである笠山と長門峡について、来られた方にジオパークの楽しみ方を伝え、大地、自然、人間の活動をつなぐジオガイドの養成講座を開きます。

笠山については、山頂展望台を訪れた方を中心に、萩の大地の成り立ちを語り、ジオパークの楽しみ方を伝えることができるようになることが目標です。

長門峡は、山口市阿東地区と連携して、秋の紅葉シーズンまでに、遊歩道を散策するお客様が安全に楽しむお手伝いができるようになることを目指します。

第1回目の講座を5月30日（火）、午前10時から萩・明倫学舎展示映像室で開催します。興味ある方は、ジオパーク推進課まで電話またはメールでお申込みください。



〈笠山展望台でのジオガイド〉

5月の予定

- 萩ジオカフェ 5月18日（木） 14:00～15:30 会場：萩・明倫学舎 復元教室、18:30～20:00 会場：萩市中央公民館第3和室（萩市民館）、参加費：100円、申込み：萩ジオパーク構想推進協議会（電話：0838-21-7765） *前回のジオカフェでは「友人に紹介したい萩の食べもの」を考える宿題が出ています。どんな食べもの？ その背景まで説明できると楽しいかも？